

競技上の注意

審判長：山田 健二

<ルールについて>

- 1 現行の日本卓球ルールを適用する。
- 2 11点5ゲームスマッチでタイムアウト制を採用する。ただし、1マッチに1回、1分以内を厳守すること。
- 3 公認のユニフォームを着用し、今年度の日本卓球協会ゼッケンを着用する。

<団体戦について>

- 1 4シングルス1ダブルスで3番にダブルスを行う。1番と2番でダブルスを組むことは出来ない。シングルスには1人1回しか出ることは出来ない。
- 2 人数が4人に満たない学校は、敗退決定を前提とし、予選リーグのみ参加可能とする。
- 3 共用台を効率的に使用し、試合をスムーズに行うようにする。
- 4 試合結果は両チームで確認をした後、勝ったチームがバインダーと一緒に本部まで持ってくる。
- 5 予選リーグ1位～2位のチームは、順位トーナメントがあるので、オーダー用紙を本部まで取りに来る。予選リーグ3位以下のチームは終了となる。

<ダブルストーナメントのアドバイザーについて>

- 1 1回戦目からベンチコーチを認めます。ただし1試合につきベンチコーチは1人までとし、一度抜けたら再度入りなおすことはできません。
- 2 ベンチコーチは日卓登録をしている監督か選手のみとなります。

<進行について（別紙1・2）>

- 1 タイムテーブルをもとに、ベンチコール方式によって進行する。
(あくまでも試合予定時刻の目安である。また、当該コートでの実施とは限らないため、放送に注意。)
- 2 1日目の団体戦は相互審判で行う
 - ① ベンチに入れるのは申し込みの段階で監督として登録された者のみとする。
 - ② 進行によっては4台進行を行う可能性があります。
 - ③ 4台進行の場合は4つのシングルスを先に行い、その時点で3点取ったチームの勝ちとし、2-2になった場合はダブルスで勝敗を決める。
- 3 2日目はダブルスのトーナメントを行う。初戦は次の試合のものが審判をし、その後は敗者審判とする。
 - ① ユニフォームが揃わない場合は、開会式前までに本部まで申し出ること。

<今大会について>

次の新人戦地区予選のシード資料とする。